



メリークリスマス

とよ・たろ美肌通信

12月号 vol.53

菅沼翼



サンタさんとトナカイさん

ゆきだるまがいて、

とっても楽しそうなクリスマスの今月の表紙です。

絵を書くことと習字が好きで、サッカーも好きな男の子が描いて下さいました。

素敵な表紙をありがとうございます。

院長はじめ、スタッフ一同心より感謝申し上げます。



医療法人 優慶誠会

豊郷たちかわ皮膚科クリニック*



仕事への責任・仕事への意識の高さについて

とても感銘を受けた話と巡りあえたので紹介させていただきます。

<出典：一流たちの金言 P20～27 致知出版社>

「想い」を高くしなければ、良い製品は生まれないと題され、岩倉信弥氏（本田技研工業元常務）が書かれたものです。

本田さんはいつもしつこいくらいに「いいものをつくるにはいいものを見ろ」とおっしゃっていました。

ある時、こんな苦い経験をしたことがあるんです。

「アコード」の四ドア版をつくっていた時のことでした。

僕らのデザインチームは、四ドアを従来の三ドアの延長線上に考えて開発を進めていた。ところが本田さんは、「四ドアを買うお客さんの層は三ドアとは全然違うぞ」と言って憚らない。ボディーは四角く、鍍金を付け、大きく高そうに見えるようにしろと言われるのです。僕は内心、そんな高級車はよその会社に任せれば良いと考えていました。ほんの気持ち程度の対応しか見せない僕らに、本田さんは「君たちはお客さんの気持ちが全然分かっていない。自分の立場でしかものを見ていない」と日ごとに怒りを募らせてきます。

毎日よく似たやりとりが続き、我慢の限界を感じた僕は「私にはこれ以上できません。そんな高級な生活はしていませんから」と口にしていました。

本田さんは、それを聞くなり「バカヤロー！」と声を荒げ「じゃ聞くが、信長や秀吉の鎧兜や陣羽織は一体誰がつくったんだ？」と言われたんです。大名の鎧兜をつくったのは地位も名もない一介の職人。等身大の商品しかつけれないのであれば世の中に高級品など存在しなくなる。自分の「想い」を高くすればできる。心底その人の気持ちになればできるんだ。つくり手は、その人が欲しいのはこういうものだということが分からなければダメなんです。

想像する力ですね。「像」を「想」う。その人になり切る。

それができなければよいデザインは生まれない、と教えてくださったんです。僕が四〇歳になった時「形は心なり」という言葉がふっと胸の中に浮かんできました。やはりいい心でものを考えないといい製品はできないし、形のいい製品はやはりいい心でできているんだなと思うようになりました。

私達医療従事者は製品を作ることはありません。
しかし、限られた 2～3 分間の短い診療の中で、

- 正確な診断
- 病気への理解を得られる説明
- エビデンスに基づいた治療

これらを行いつけることで患者様の想いに少しでも近づくことが出来ると信じています。
またこれらの積み重ねが、とよ・たちオリジナルの「形は心なり」になっていくとの想いを新たにしました次第です。

院長・拝